


<様式3>

事業計画要旨(群馬県立敷島公園)

1 申請者名		敷島パークマネジメントJV			
2 管理運営方針 (公益性) ※SDGsを考慮した		<ul style="list-style-type: none"> 当JVは、昨今の社会情勢の変化を踏まえ、新たな生活様式の下、県立敷島公園を、多様性ある県民が主役となる始動のプラットフォームにすることを目指し、管理運営を行います。 都市公園という場所を活用し、SDGs達成を目指す複数かつ多様な関係者と連携できる受け皿としての機能を果たします。 SDGsを推進する群馬県、県内事業者、団体との連携を推進し指定管理者自らもSDGsの目標達成を目指します。 <div style="text-align: center;">  <p>スタートアップ：大きな成長を継続でき新たな価値を創造する力を持つ場所・組織 プラットフォーム：サービスや仕組みを提供し、改善しながら運営していくために必要な共通の土台</p> <p>【単位：千円】 (税込)</p> </div>			
3 収 支 計 書	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	総収入	233,300	233,900	234,500	
	内訳	指定管理料	198,900	198,900	198,900
		その他	34,400	35,000	35,600
	総支出	233,300	233,900	234,500	
	自主事業収支	197	88	249	
4 サービス等を向上させるための取り組み		<ul style="list-style-type: none"> 「閑散期の施設利用者増加」及び「年間での園路利用者増加」の2つの視点から各施設の稼働率向上と公園全体の利活用促進を図ります。 多様な世代を対象に新たな生活様式に則し、それぞれのニーズに応じた自主事業を展開します。 プレイスメイキングの考え方を取り入れ、魅力ある居心地の良い空間、自然な賑わいが継続する空間を創出します。 			
5 広報広聴への取り組み		<ul style="list-style-type: none"> 広報公聴の取り組み推進にあたり、「おかし(落ち着いて、確認して、知らせる)」と「7W1H」という明確で親しみやすい標語を活用し、全従業員に浸透定着を図ります。 			

	<ul style="list-style-type: none"> ・従事する業務を問わず、全従業員一丸となることで気が付きにくい利用者のニーズや利用者の変化を把握していきます。 ・ホームページやSNSでの情報収集のニーズの高まりに対応するため、ホームページの全面改修を行います。全面改修に併せ掲載情報の見直しを行い、より有益な情報発信を図ります。
6 県民との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・当JVは、「いつでも」「だれでも」「どのような内容でも」を念頭に、ボランティアの受け入れを行います。参加希望者のニーズに合わせ活動内容等や日程を調整します。 ・従業員であるボランティアコーディネーター(企画課係長)が中心となり、活動希望者の受け入れに一貫して対応します。
7 組織体制について	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理業務を適切に遂行できる安定した組織体制として、それぞれに強みと専門性をもつ4社によるJV(共同企業体)を構成し、管理運営を行います。 ・JV各社が、事業年度決算において黒字となっています。JV各社の本社からの年間を通じた人的・資機材・ノウハウのサポートが充実しており、安定した経営基盤と管理運営が可能です。
8 維持管理の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設が常に稼働し大会が連続する特性を踏まえ、作業の必要性、緊急性、先の予定との整合性を考慮した優先順位の設定と作業計画の立案を行います。 ・植栽の特性に応じた維持管理を行い、樹形形成等による美観の継続・維持を実施します。
9 組織運営について	<ul style="list-style-type: none"> ・県立敷島公園の現地常駐経験を有する総括責任者兼園長、副園長をはじめとし、専門性の高い有資格者を配置します。 ・「公の施設」の指定管理者が持つ責務として「障がい者の社会参画」「多様な人材確保」「地元教育機関との連携」「地域コミュニティの継続」を踏まえ新規従業員の採用を行います。
10 人材育成について	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修や資格取得支援にて、県立敷島公園の各種業務で活躍可能な12の資質向上を図ります。従業員のスキルアップ及び自己研鑽を積極的に支援し、管理運営の高度化を図ります。
11 知識・経験について	<ul style="list-style-type: none"> ・大規模公園や多様な公共施設の管理運営、指定管理者として国民スポーツ大会の運営支援、スポーツターフの管理等、県立敷島公園の指定管理に必要な知見・実績を有した企業により管理運営を行います。

	<ul style="list-style-type: none"> ・PFI事業への参画等、民間資金による事業展開のノウハウも所有しています。
12 情報管理に対する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・コンプライアンス方針及び倫理基準を明確にした行動規範の徹底に加え、定期的な社内研修等の開催により、従業員のITリテラシーの向上を図ります。 ・雇用契約時及び退職時に書面で「情報セキュリティに関する宣誓書」、「機密保持契約書」を交わし、個人情報をはじめとする重要な情報の保護を徹底します。
13 安全管理への取り組み・事故、災害等緊急時の連絡動員体制	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の巡回点検により事故の未然防止に努めます。 ・周辺地域(自治会、公園周辺施設等)と連携した防災訓練の実施により地域防災力の向上を図ります。 ・事前に緊急事態が発生した場合の行動及び役割分担の明確化を行い、迅速な緊急時対応を可能とします。
14 環境管理に対する取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・教育を通し社員の意識変革を行い、環境マネジメントの導入、身近な取組みからの実践を推進します。 ・県内企業と連携し、廃棄物(有価物等)の資源化を行います。 ・雑多なゴミとして発生しやすい廃プラゴミの更なる分別強化により、廃棄物の発生抑止を図ります。
15 新型コロナウイルス等の感染症対策、新しい日常によるあらたな公園利用	<ul style="list-style-type: none"> ・感染拡大を防止するため利用時間制限の設定や、飛沫感染防止のためのマスク着用・飛沫防止シートの設置を行います。 ・新たな生活様式の普及に伴う園路利用者の増加に対応し、屋外オープンスペースの確保を図ります。
16 各種公式戦や大会の施設管理、来園者への駐車場情報提供方法	<ul style="list-style-type: none"> ・大会・イベントに応じて各種ツールを使い分け、品質確保、大会運営のトラブル「0」、事故「0」、クレーム「0」を目指します。 ・混雑が予想される駐車場は、ホームページで情報発信を行い一般来園者や地域住民に対しても周知を図ります。
17 園内修景の向上策	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域との結節点、多様な県民を出迎えるための玄関口としての修景を重視し、仮設休憩設備の増設や魅力ある空間を演出する光の修景、玄関口にふさわしい公園サインの増設に取り組みます。 ・空間デザイン・植物のプロフェッショナル事業者と連携することで魅力的な花修景を創造します。

<p>18 4つの天然芝を競技者視点での複数施設同時メンテナンス管理方法、水泳場の突発的な故障等への対応のための点検・維持管理方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツターフの管理に熟知し、競技者ファーストの姿勢にて管理を行うことが可能な人材の常駐により、品質の確保及び県立敷島公園独自の管理ノウハウの伝承に努めます。 ・環境特性と利用特性を踏まえ計画的な管理作業を立案します。 ・長時間かつ特殊な技術を要するため熟練技能者の確保が難しいスポーツターフの管理について、産学民共同による研究開発を促進し、常用式芝刈り機の自動運転化を目指します。 ・日常点検での不具合の早期発見等・ファシリティマネジメントの考え方を踏まえ、「戦略保全」「予防保全」「改良保全」の十分な理解に基づく水泳場の点検・維持管理を推進します。
<p>19 その他提案事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2029年の国民スポーツ大会に向け、過去の国スポ開催支援で得た知見を活かし、準備や課題把握等を行います。 ・当JVの構成企業が、2027年・2028年の国スポにも指定管理者として携わるメリットを活用し、情報収集や現地視察等を予定します。

注 1 公表時は、申請者名欄は団体種別のみ表示します。

2 A4判3～4枚程度で事業計画書の該当項目を要約すること。

3 自主事業を行う場合は、収支計画書欄に自主事業を合算した数値を記載すること。